

## 陸上競技部女子更衣室の改修

副校長 仲道 嘉夫

教育後援会の皆様、いつも本校の教育にご協力いただきありがとうございます。本年度は新型コロナウイルス感染症の対策のため、6月はじめまで休校や、その後、年を開けてから緊急事態宣言の再指定といった、新型コロナ対策に振り回された年でしたが、非接触式の体温計など、予防に関する物は大学予算でそろえることができました。教育後援会の寄付金からは新型コロナ対策には支出していませんが、緊急に必要な、他の安全対策には教育後援会からの寄付金を使わせてもらっています。

今回紹介させていただく、標記の件ですが、実際は昨年度実施したものです。学校では毎月一回、職場巡視というのを行っておりまして、校内の各場所を順番に回って危険がないかチェックしています。昨年度末、クラブ部室を巡回したところ、陸上競技部の部室の中で男子と女子を分けているパーティションが老朽



化で外れかかり、ぐらぐらして危ない状態でした。ですが、学年末と言うことで、予算が全て執行された後で、大学の予算が使えない状態でした。そのような訳で、緊急的に教育後援会への寄付金から、パーティションの交換、しっかりと固定する工事をおこないました。このように、緊急で対処しなければならない場合もあり、皆様からの寄付金は大変有り難く使わせていただいております。今後とも、本校の教育活動を支援していただければ幸いです。よろしく願いいたします。



## 総会(書面決議)とリモート役員会

今年度はコロナ禍での活動となったため、教育後援会主催の行事も残念ながら全て中止となってしまいました。そんな中でも、総会は書面決議によって行って決議事項が成立し、役員会 はリモートで3回行い、3月に第4回を行う予定です。

来年度の新型コロナの状況は不透明ですが、落ち着くまではリモート会議を併用しながら、活動していきます。



一昨年の役員会で「お料理教室」講師のシェフ、大塚先生によるレシピのご説明。今年度は再びこの様な穏やかな生活に戻りたいですね。

教育後援会だより第22号 令和3年3月3日発行

東工大附属高校教育後援会 発行人 伊本 淳平

オフィシャルホームページ <http://tokodaihuzoku-koenkai.com>

制作・印刷 株)あおむし <http://www.aomushi.com>



# 東京工業大学附属科学技術高等学校 教育後援会だより

Koenkai

第22号  
2021年  
3月3日発行

## 2020年度を振り返って



教育後援会会長 伊本 淳平

生徒の皆様、保護者の皆様におかれましては、いつも教育後援会の活動にご理解と多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございます。

詳細は5月の総会にてご報告致しますが、令和2年度に於きましても、皆様より多大な額の助成金を頂く事ができ金額高校に納入致しました。これもひとえに教育後援会役員の方含めた皆様のご協力のおかげであり、この場をお借りして御礼申し上げます。

2020年度を振り返ってみますと...、生徒・保護者の皆様、先生方・学校関係の皆様は受験を含め、授業の実施や各種行事へのご対応に大変ご苦労なされたかと思いますが、同じく教育後援会にとっても例年とは異なる対応を余儀なくされる年でした。

文化祭の中止に伴い例年実施しているバザーも取り止めとなり、家庭科室での三密を避けるためにお料理教室も取り止め、唯一開催を計画していた庭園見学会に於いても、新型コロナウイルス感染者数の激増により直前で中止を決定しました。

役員会も通常通りに全員が集合して開催することはできませんでしたが、仲道先生、近藤先生たちのご尽力・ご厚意により学校のPC、ネットワークを利用して頂きなんとリモート会議と言う形で開催することが出来ました。しかしながら最近のテレビ会議システムの性能や使い易さ、そして役員の方々が難無く接続出来るという一般家庭へのIoTの普及など目を見張る物が有り、疫病が流行ると社会が変わるとも言われていますが、個人的には地味ながらも一番の変化は、マスク着用とうがい・手洗いの徹底が(日本も含めて)世界中で広まったことだと思います。

一昔前、家族とオーストラリアに駐在していた際の話ですが、住居がメルボルン近郊(と言っても200km離れた地方)でしたので冬はそこそこ寒くて空気が乾燥し、日本と同じくイン

フルエンザが流行ってました。しかしそんな中でマスクを着用している人間は誰一人おらず(そもそも彼らは雨降っても傘もさしません)、みんな罹患して職場で咳して移してました。そんな中、家内の指導で予防にと日本製のマスクを着用して出社すると、同僚(オーストラリア人)が不思議そうに寄ってきて「淳平、何だそれは?お前忍るか(笑)?」と揶揄。(「ジミー、あんたインフル罹ってるって言ってたろ。鼻垂らしながら近くに寄って来ないでくれ」と、その時は思いましたが...)

また別の場面では、会議や現場から戻って洗面所で日本製のイソジンでうがいをしていたら、上司(これもオーストラリア人)が血相変えて飛んできて「淳平、大丈夫か!?!」と。何かと思ったら誰かが、私が尋常じゃ無い色の吐血をしていると知らせたとのこと。おかげで誤解を解くために「うがい」の英訳を覚えました。結果、私も家族も向こうではインフルに罹患しませんでした。その様な体験があるため最近のニュースを見ると、海外でも普通にマスクを着用して「世の中変わったなあ(良い意味で)」としみじみ思います。残念ながらコロナ禍初期の発生国の情報隠蔽(いつものことですが)や、某国際機関や某国家元首のマスク不要論の流布といった愚かな施策によりここまでパンデミックを許してしまいました。皆の努力できっと乗り切って2021年度は通常の生活に戻れることと信じてます。

その様な訳で、今年度は一切の行事を行えなかったため、後援会だよりのバックナンバーから過去の後援会活動を振り返ってみました。また取り止めになった庭園見学会ですが、市川副会長が単独で素晴らしい紅葉の模様をレポートしてくれましたので、こちらも是非お楽しみ下さい。

今後とも教育後援会へのご理解ご協力の程、何卒よろしくお願致します。

# 港区とのお縁をいただいた母校に感謝！

2003年3月建築科(現 建築デザイン分野)卒 玉木 真



## ● 自己紹介

こんにちは。東京都港区の区議会議員として、街づくりをテーマに活動する玉木真です。議員の傍ら、教科書や学習参考書の編集制作プロダクションでも働いています。プライベートでは4歳児子育て中の野球と自然、建築・アートが好きで35歳です。

議員活動、民間企業での仕事、家族との生活など、日々新しい発見と挑戦の連続ですが、私のこれまでの歩みをご紹介します。在校生の皆さんの進路選択などの参考にしてもらえたら嬉しいです。

## ● 高校時代

父が建築設計事務所に勤めていたため、幼い頃からモノづくりに興味があり、本校への進学を決意しました。



高校2年生の野球部夏の大会(2001年7月)

初めての製図の授業で時間内に課題が終わらず居残りしたことや、私服通学のためか、先輩の姿がとても頼もしく、先輩の作品を見ては、早く自分も追いつきたいと考えていたことをよく覚えています。

高校生活の多くの時間は、野球部と建築科の課題に費やし、課題研究では土壁をテーマに取り組みました。

今振り返ると高校では、物事を考察する力や複数人で取り組む対話力といった大人になった今でも役立つ基礎力を学びました。

野球部では、ライトアップされた東京タワーに向かってバッティング練習をしたことや、レインボーブリッジをランニングしたことが良い思い出です。

## ● 大学生活

1年間の浪人を経て、建物単体ではなく、部屋の中の家具や公園、街といった広い視点から建築を学びたいと考え、武

蔵野美術大学造形学部建築学科へ進学しました。

大学の授業では、高校で建築の基礎を学んでいたため、1年次から円滑に取り組むことができました。

一方、建築設計課題では、毎授業にエスキスと呼ばれる教授や講師との意見交換の時間があり、プレゼンテーションや対話力を日々鍛えられました。

3年次からは公共空間や境界線、移動に関わる映像作品やインスタレーション作品を制作し、建築設計とは異なる表現を意識して取り組みました。

## ● 就職と転職

大学3年次に制作した映像作品がきっかけとなり、道路や橋梁といった土木分野のデザイン事務所に就職し、3DCG制作などを担当しました。

公共事業の実務経験から次第に住民発意のプロジェクト提案や制度設計などに興味を持つようになり、勤務先が港区であったことから、2010年に港区役所麻布地区総合支所が公募する区民参画組織という会議に参加しました。会議では、地元の方と港区の課題を話し合い、区民目線から目指すべき麻布地区の将来像について議論しました。

区民参画組織への参加がきっかけとなり、コミュニティビジネスなどに興味を抱き、地域活動に重点を置くため、本校建築デザイン分野補佐員(技術支援員)へ転職しました。



武蔵野美術大学卒業制作(2008年3月)

## ● 挑戦

補佐員時代には、授業準備等の傍ら、港区立芝浦小学校や江戸川区立小岩図書館での建築体験ワークショップを生徒とともに企画し開催しました。



小岩図書館での橋をつくるワークショップ(2014年7月)

また、個人の活動としては、区民参画組織の有志とともに2011年の東日本大震災を受けて、新旧住民の接点や新しい地域コミュニティづくりを目指して、公共空間を活用した取り組みとして「有栖川公園コミュニティカフェ」を港区に提案し開催しました。



有栖川宮記念公園 森のコンサート&コミュニティカフェ(2017年6月)

議員となった今でも、誰でも立ち寄ることのできる公園や公共空間を最大限に活用し、地域の顔の見える関係を作っていきたいと考え、活動しています。

## ● 二足の草鞋への挑戦

2019年4月、2期目の当選を果たし、専門の政治家ではなく、私自身も働き、暮らす一人の区民でありたいとの思いから、本格的に区議会議員と民間企業の社員の両立に取り組み始めました。

民間企業では、学習参考書などの編集制作という未知の分野に、本校補佐員での勤務経験も生かして挑戦する日々です。

30歳を過ぎて、初めて営業活動を経験するなど、議員活動にも良い発見がありました。

そして、区議会議員としては、真に困っている人を見捨てない社会を目指すとともに、すべての区民が港区に愛着と誇りを持ち、区民が主役となって活躍できる街づくりを進めていきます。

## ● 在校生の皆様へ

学校生活はどうか。コロナ禍で将来への不安も多いと思いますが、私は自由な校風と強い個性やこだわりを持つ生徒が多く集まる本校での学校生活にたくさんの刺激をもらいました。

今でも、友人や先輩、後輩、補佐員時代の教え子、そして(あまり異動がないので)卒業後も学校にいることの多い先生方の存在は、自分の様々な場面で大きな支えになっています。

高校生はあっという間に大人の仲間入りです。この教育後援会だよりを見た在校生や卒業生と、社会で何か一緒に面白いことが出来る日を楽しみにしています。

## ● 最後に

このような母校の教育後援会だよりに寄稿させていただく機会をいただき、感謝申し上げます。

そして、コロナ禍で様々な困難に直面されている方にお見舞い申し上げるとともに、皆様のご健康と母校の益々のご発展を心よりご祈念いたします。



港区議会での質疑の様子(2020年9月)

# 庭園見学会振り返りレポート

残念ながら中止となってしまった庭園見学会ですが、門馬顧問が作成した参加者配布用のパンフレットと市川副会長の単独レポートです！



## むくさのその・六義園・りくぎえん

時代劇の水戸のご老公・黄門さまが、犬公方として悪名高い5代将軍綱吉を「生類憐れみの令」で庶民が迷惑していると諷めると、お側に仕える柳沢吉保が将軍に対し不遜だと食ってかかります。こんなシーンが本当にあったかどうかは知りませんが、黄門様・水戸光圀は小石川後楽園を作り、柳沢吉保は今回訪れる六義園を作りました。

吉保は様々な時代劇(赤穂浪士などでも)で悪いイメージで描かれていますが、この庭園を見る限り、高い教養と優れた審美眼を持つ貴族的人柄と思われまます。

この庭園見学で吉保や綱吉の人となりとうかがうのも面白いと思います。

あらためてご紹介。「六義園」は、徳川5代将軍・徳川綱吉の側用人・柳沢吉保が、1695年(元禄8年)に加賀前田家の下屋敷跡地を綱吉から拝領し、約2万7千坪の平坦な土地に土を盛り丘を築き、上水を引いて池を掘り、7年の歳月をかけて、回遊式築山泉水庭園を作庭しました。「六義園」の名称は、紀貫之が『古今和歌集』の序文に書いた「六義」(むくさ)という和歌の六つの基調を表す語に由来する。和歌に造詣が深かった柳沢が、この「六義」を『古今和歌集』にある和歌にならい庭園として再現しようとしたもので、紀州の和歌ノ浦を中心とした美しい歌枕の世界を写して、庭園を造ろうとしました。ですから吉保本人はこの庭園を「むくさのその」と呼んでいたようです。1702年(元禄15年)に庭園と下屋敷が一通り完成すると、将軍綱吉のお成りが頻繁に行われるようになります。

その回数は記録されているだけで58回にもものぼり、吉保の寵臣ぶりがうかがえます。大老格として甲斐甲府藩主まで上りつ



めた柳沢家は、子の吉里の代から大和郡山へ転封となり、柳沢家の下屋敷として幕末まで使用されますが、徐々に荒れはてて行きました。

明治の初年、三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎が六義園を購入、荒れたままになっていた庭園に整備が施され、このときに周囲の赤煉瓦塀も造られました。1938年(昭和13年)に東京市に寄贈され、以後一般公開されるようになりました。東京大空襲の被害を受けることもなく、造園時の面影を残したまま今日に生き延びた六義園は、1953年(昭和28年)に国の特別名勝に指定されています。

この庭園見学会も13回目を迎えますが、これまで訪ねた庭園の中に今回のように元大名庭園→幕末→岩崎弥太郎所有といった例が幾つもありました。「六義園」の場合は、お側用人・柳沢吉保が超VIP・将軍綱吉を接待する空間として作った庭園でしたが、弥太郎が買い取った後は、三菱財閥が国内外のVIPを招待し様々な接待仕事を催した野外パーティ空間といえるかもしれません。このような見方で見るのも一興です。

(教育後援会 顧問：門馬 進)

- 【参考】過去の庭園見学会の訪問場所
- 2008年度 三溪園(横浜市)
  - 2009年度 六義園(文京区)
  - 2010年度 湯島天神～旧岩崎邸庭園(文京区)
  - 2011年度 旧渋沢庭園～旧古河邸庭園(北区)
  - 2012年度 小石川後楽園(文京区)
  - 2013年度 浜離宮恩賜庭園(中央区)
  - 2014年度 清澄庭園(江東区)
  - 2015年度 東京都庭園美術館(港区)
  - 2016年度 原美術館(品川区)
  - 2017年度 旧岩崎邸庭園(文京区)
  - 2018年度 旧古河邸・旧古河庭園(北区)
  - 2019年度 根津美術館(港区)

- 東京建物見学
- 2003年 網町三井倶楽部(旧三井別邸)
  - 2004年 和敬塾本館(旧細川侯爵邸)
  - 2007年 鳩山会館(旧鳩山一郎邸)

新型コロナウイルスの影響で、予定されていた庭園見学会が中止になってしまいましたので、皆様を代表して市川が六義園に見学に行ってきました。元々の予定の11月28日は六義園の大きな魅力である紅葉が、今年の色付きが遅く見られませんでしたので、2週間後の12月12日に再度訪問して、この時は見事な紅葉を見ることができました。両日の比較を含めてレポートしますのでお楽しみください。2021年は庭園見学会が無事開催できますように！



11月28日(土)



12月12日(土)



リポーター  
2C(副会長)  
市川 秀久

# みなさまのご協力により...

教育後援会会長 伊本 淳平

今まで後援会を通して保護者の皆様などからお預かりした助成金やバザーの売り上げから、学校に納められた数々の品々です。皆様のご協力で、生徒の皆さんが安全で充実した学校生活を送るために必要な物品が揃えられます。



- 2005年度「AED」
- 2007年度「本館2階212教室前方にスクリーン設置」
- 2008年度「音楽室 グランドピアノ」
- 2008年度「光学式マークシートリーダー(OMR)」
- 2011年度「車いす」
- 2014年度「スーパーレスキューセット」
- 2015年度「製氷機」
- 2017年度「HR教室の扇風機」
- 2018年度「3年生課題研究英文アブストラクト」
- 2019年度「放送設備」



デジタルプログラムチャイム (JVC PA-DT600)



# ホームページご紹介

tokodaihuzoku-koenkai.com

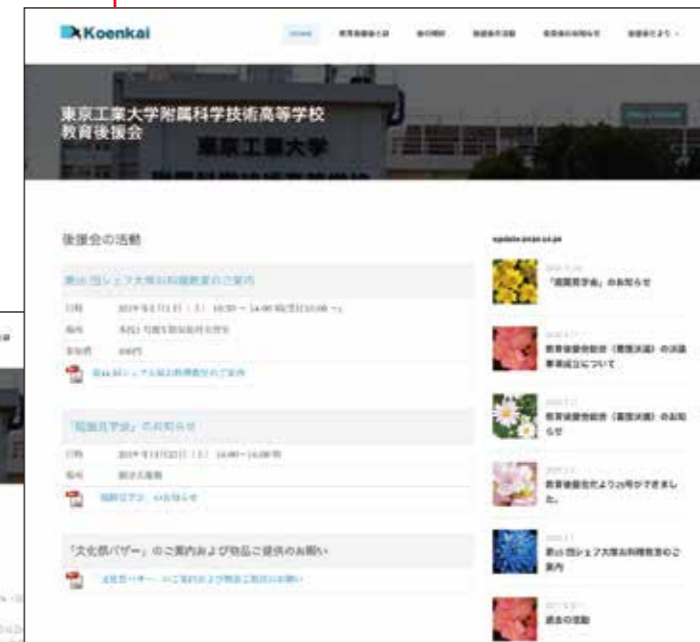


トップページ

教育後援会のホームページでは、教育後援会の成り立ちや「教育後援会だより」、特別活動、役員会の日程などを掲載しています。大切な情報を掲載していますので、時々ご覧ください。



機関紙「教育後援会だより」をPDFにて第1号からご覧いただけます。



教育後援会の設立経緯を紹介しています。教育後援会では、学校行事や課外活動等の生徒が直接関わる教育活動への支援を行っています。



東京工業大学  
附属科学技術高等学校  
教育後援会

オフィシャルサイト  
tokodaihuzoku-koenkai.com